

線状降水帯に備えて、日頃から避難の準備を。

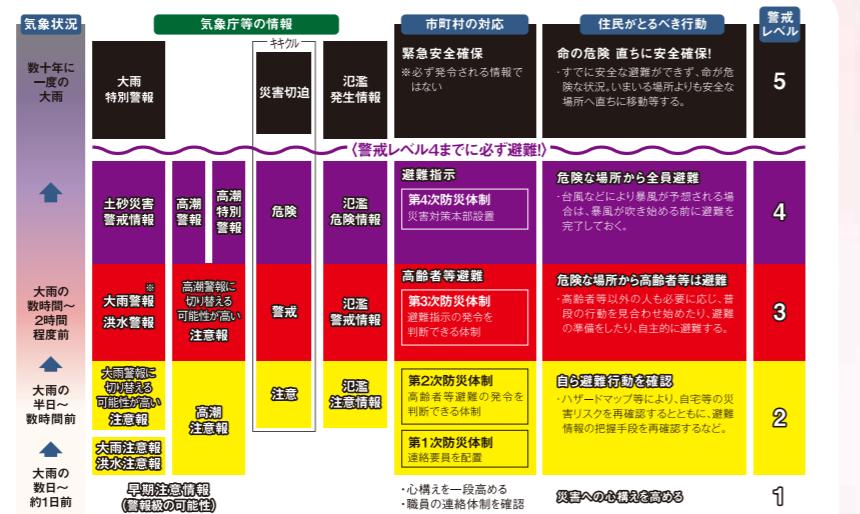
では、福井で役立つお天気と防災のお話をしたいと思います。その一つ目のキーワードが、「夏の線状降水帯」です。線状降水帯とは、「次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなし、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することできり出される雨域」を指します。3時間で200ミリ以上の大雨と

なることもあります。昨年8月、福井でも線状降水帯が発生し、滝のような雨が降り続け、山沿いでは土砂災害が発生しました。

雨が強まってからでは、数秒で命を落してしまうことがあります。だからこそ、備えが大切です。まずは、自分の住んでいる場所の危険度が分かる「ハザードマップ」を確認し、避難所や知り合いの家に避難する際、川の近くを通らないルートを調べます。次に、避難する際の荷物の準備です。日ごろから△数時間だけでも命を守るために必要な荷物▽避難所などで1、2週間過ごすのに必要な荷物の2種類を用意しておくといいでしょう。

避難情報と 住民がとるべき行動

とるべき行動は、「色」で判断しましょう。「赤」は移動に時間がかかる高齢者や幼いお子さんがいる場合の避難レベル。「紫」は、みんなが必ず避難するレベル。「黒」は災害が既に発生しているレベルであり外へ避難せず、1階にいるなら2階、高層の建物ならできるだけ上の階に避難してください。



大雪の立ち往生。 命を守る備えを。

次のキーワードは、「冬のJPCZ（日本海寒帯気団収束帶）」です。JPCZは、大陸からの強い寒波が朝鮮半島の山脈で迂回（うかい）し、山陰付近で筋状の雲がぶつかり合い発生する帯状の雲域のこと。家屋の倒壊や雪崩を発生させる危険な雪雲です。今年1月のいわゆる「最強寒波」でも、この活発な雪雲が福井に流れたことで大雪となりました。

昨年の天気予報で、ドライバーの方に「雪で立ち往生したときのアドバイス」をしました。一酸化炭素中毒への備えです。活発な雪雲がかかると吹きだまりが生まれ、自動車の排気口に雪が詰まり、一酸化炭素が室内に充満してしまいます。立ち往生したときはエンジンを切るべきであり、エンジンをつけたままに

するなら、雪かきをするためのスコップを用意してくださいと伝えました。羽鳥さんは「とても分かりやすかった」と言ってくれたのですが、翌日、一酸化炭素中毒で2人が亡くなりました。この出来事は、気象予報士の声は届かなかったのかとショックでした。それでも、こうして講演会を続けることで、皆さんの防災の意識が高まればと切に願っています。

天気予報の後に、 どうしてストレッチ？

気圧が低いときに頭痛が起きやすい「気象病」。そんなときは、内耳をマッサージ。熱中症に備えて、しっかり汗をかくストレッチ。お天気とストレッチを通じた健康管理は、密接な関係にあるのです。



第2部 Orchestra Ensemble Kanazawa String Quartet

オーケストラ・アンサンブル金沢 弦楽四重奏

幅広い演奏活動を通して高い評価を得ている、オーケストラ・アンサンブル金沢による弦楽四重奏の演奏会が行われました。



■主催 福井県環境・エネルギー懇話会

〒918-8004 福井市西木田2-8-1 福井商工会議所ビル6階

環境エネルギー講演

& オーケストラ・アンサンブル金沢弦楽四重奏

福井県環境・エネルギー懇話会は毎年、

エネルギーや環境問題を考える講演&コンサートを開催しています。

今回のテーマは、お天気キャスターによる楽しいトークで、

地球温暖化を背景にした福井の近年の気候変動と防災のノウハウを学ぶこと。

本誌では、2023年3月12日(日)に開催された講演をダイジェストで紹介します。

The Secret of Weather Forecasting

「かたおか気象予報士 天気予報のひみつ」

講師

羽鳥慎一モーニングショー
お天気キャスター
かたおか しんわ
片岡 信和 氏
(俳優・気象予報士)

1985年東京都生まれ。2008年に東映特撮「炎神戦隊ゴーオンジャー」ゴーオンブラー香坂連役で俳優デビュー。数々のドラマや舞台で活躍する中、2019年に気象予報士試験合格。2020年から「羽鳥慎一モーニングショー」お天気コーナーを担当。コーナー最後に行っているストレッチをテーマにした『かたおか気象予報士の毎日10秒! 楽しく「お天気ストレッチ」(幻冬舎)』が出版されている。



健康や防災に役立つ、
気象予報士を目指す。

私は大学在学中に俳優としてデビューし、戦隊ヒーローものの特撮テレビドラマに出演しました。ですので、そのときは地球を守っていましたが、今は空模様を見守っています。気象予報士になったきっかけの一つは、自然災害です。2011年の東日本大震災をはじめ、毎年のように甚大な気象災害が起こっています。「もっと人の役に立ちたい」そんな思いで、気象予報士の勉強を始めました。

それを最初に打ち明けたのは父でした。「それはいいことだ、頑張れ」と言ってくれ、その言葉がタフだった勉強を支えてくれました。私が合格する前に父は他界していましたが、父とのつながりを感じさせることができが最終試験で起きました。忘れもしない、父の命日の天気図が出題されたのです。父が大好きだった「羽鳥慎一モーニングショー」で、天気予報を担当できたことも目に見えないつながりだと思います。気象予報士となりまだ4年目ですが、そのつながりを大切に、皆さんの健康と防災に役立つ天気予報をお届けしたいと思っています。

ちょっと紹介

気象予報士の毎日



知り合いのおばあちゃんから、「天気予報の3分間だけでお給料がもらえていいね」と言われたりしますが、実際は朝3時半に起きて、5時にテレビ局に出社。気象庁からの最新情報を解析し、そこから放映される3分間のシナリオを考える毎日です。



テレビは「言葉+映像」と情報量が多く、伝えることがたくさんあるからこそ、分かりやすい台本が大切。本番前のリハーサルでは、前のコーナーに合わせて時間を調整できるように「そのときはここを削ろう」とシミュレーションします。

曲目

ヴィヴァルディ:弦楽のための協奏曲 Rv.163「法螺貝」
ドヴォルジャーク:弦楽四重奏曲 第12番 作品96「アメリカ」より第1楽章
スマーナ:弦楽四重奏曲 第1番「我が生涯」



TEL.0776-33-7050 FAX.0776-33-7052 <https://www.fukui-kan-ene.net/>

■共催 北陸原子力懇談会